

My stories in St.Paul

2023年度入学 グローバルコース M.S



進学先：武蔵野大学 文学部 日本文化学科 (総合型選抜)



STEP 1 他者とのつながり



地域のお祭り運営から農作業、子ども食堂、小学校の活動サポートまで、恩方の豊かな自然の中、多様な世代の方々と汗を流しました。ほとんどのキャリアプロに参加したと思います。

もともと人前に出ることは苦手でしたが、地域の方々の「ありがとう」という笑顔や、仲間と協力して一つの役割を全うする達成感が、私を内側から変えてくれました。活動の成果を八王子の環境展で発表した際、自分の言葉が地域の方々に届く手応えを感じ、内向的だった私は「他者につながる喜び」を知る一步を踏み出すことができました。



STEP 2 コミュニケーション力



3年生になって、ESSに所属しました。修学旅行で行ったフィリピンがきっかけで、英語力を向上させて、いろんな人と関わりたいと思ったからです。人と関わることや、自分の気持ちを表現することが好きなのかもしれないと考えようになりました。



STEP 3 進路への不安

地域活動に没頭し、充実した日々を過ごす一方で、心の奥底には拭いきれない不安がありました。周囲が着実に進路を決めていく中で、自分の将来のビジョンだけが霧に包まれているように感じていたのです。「地域のために動くことは楽しい。けれど、自分自身が本当に生涯をかけて探究したいことは何だろうか」。「ボランティアばかりやってきたけれど、これは大学の学びとは関係ないのではないか」。

そんな停滞感の中で、私を支え、次の一步を示してくれたのは、中学時代から習慣にしていた「読書」という、もう一つの大切な居場所でした。



STEP 4 「文学」と「人間」



中学生の時に出会った佐藤多佳子さんの『明るい夜に出かけて』を、改めて読みました。ラジオという身近なメディアを通して描かれる登場人物たちの「心のさまよい」は、進路に迷う今の私の心に強く響きました。

言葉への興味は、高校の授業でさらに専門的な関心へと進化しました。『源氏物語』に登場する「紫」という色。それが単なる色彩を超え、高貴さや「紫のゆかり」といった濃密な人間関係を象徴するキーワードであることを知り、さらに、大河ドラマ『光る君へ』を視聴したことで、平安の雅な文章表現が、現代の映像メディアによってどう再解釈され、視覚化されるのかという「表現手法の違い」にも強い関心を抱くようになりました。地域活動で「生身の人間」と触れ合ってきた経験があるからこそ、文学や映像の中に描かれる人間模様を、より切実なリアリティを持って探究したいと考えています。

